

小豆沢病院地域医療連携センター便り

あずき通信 2011年秋 第5号

私たちは患者様の人権を大切に、命は平等の立場で安心して利用できる病院を目指します

小豆沢病院ホームページ www.kenbun.or.jp

発行／医療法人財団健康文化会

小豆沢（あずさわ）病院地域医療連携センター

発行責任者 事務長：西坂昌美

東京都板橋区小豆沢 1-6-8

電話 03-3968-7506（直通）Fax03-3968-7507

（財）日本医療機能評価機構認定（ver. 6）JC0697-2

患者様に寄り添った総合診療に取り組んでいます～2階病棟

東京都二次救急・脳卒中急性期医療機関としての当院の役割から、2階病棟（一般病棟）は救急で入院される方が約半数です。猛暑の7～8月は熱中症や食欲不振による入院など季節的な傾向もみられました。

入院件数（8月）

肺炎	6件
発熱	4件
糖尿病教育入院	4件
熱中症	3件
尿路感染症	3件
脳梗塞	3件
脱水症	2件
大腸検査入院	17件
その他の疾患	36件
合計	78件

救急入院以外では、呼吸器や消化器系の検査や治療、糖尿病のコントロールを目的とした入院が多くを占めます。また、転院による在宅復帰を目指した治療継続での入院も受けています。入院される方の多くは高齢の方です。高齢の方は一人で多くの疾患を持ち、それらの疾患は精神・神経症状を伴ったり、食事や生活・住環境等から影響を受けやすい傾向があります。当病棟ではこのことを踏まえ栄養評価やリハビリテーション、退院後の在宅療養に向けて家屋調査や退院前カンファレンスなど職種を超えたチームで取り組んでいます。急性期の治療が一段落した所で、当院の亜急性期病床や回復期リハビリテーション病棟、地域の診療所の往診や訪問看護ステーション等を利用して在宅療養に入ることができることも特徴の一つです。



ウォーキングカンファレンス

患者様が参加する看護計画作りに取り組んでいる2階病棟の鈴木洋子看護師長は8月に着任したばかりです。入院から退院までチームで責任を持つことにこだわりたいと抱負を語ります。

2階病棟担当医師の紹介



今年の3月から小豆沢病院に入職しました渡辺航（こう）です。出身は東京都江東区。趣味はテニス、お酒です。

地域医療に関心があり、当院へやってきました。内科医として2階病棟で患者様を受け持ちながら、外来や往診などを担当しています。これまでの経験を生かしながら総合診療医を目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

在宅酸素患者会（HOT ひまわりの会）の紹介

HOT ひまわりの会会長の佐藤榮治さんにお話を伺いました。「会の目的は在宅酸素療法を行っている患者及び家族の親睦と日常生活の向上を図ることです。発足は平成10年ですので今年で13年目になります。主な活動は年4回の定例会や春のお花見、秋の一泊旅行などです。今秋の旅行は大震災の状況を鑑み、日帰りで桧原村（東京都）に行く予定です。私自身、患者会に入会したのは、平成14年に呼吸器疾患で小豆沢病院に入院し、酸素吸入が必要になった時に看護師さんから誘われたのがきっかけでした。現在、会員は13名（家族も含む）です。目標は年内に5～10名の会員を増やすことです。小豆沢病院の職員には旅行に同行してもらい、お風呂では背中を流してもらい、かくし芸を披露して笑いを提供してくれるなど信頼感があります。今後も多くの仲間や病院の職員と共に安心して療養できる環境を目指していきたいです。



会長の佐藤さん

練馬第一診療所の紹介

練馬第一診療所は、当法人の診療所の中でも最も歴史が古く開設は1961年（昭和36年）8月で、「この地域に貧しくとも安心してかかれる診療所を」と地域の方々のご支援をいただきながら、今年で創立50周年を迎える事が出来ました。開設当時は周りが畑でポツンと診療所が建っていたそうですが、今はマンションや住宅などが建てられ、診療所の周りに当時の面影がわずかながら残る畑がその姿をとどめている程度です。

当診療所は、医療機器（胃カメラ・エコー等）の整った診療所としての機能を持ち合わせ、また、近隣には、ほとんど医療機関がなかったことから地域の方々の医療、保健予防の期待に応えながら歩んできました。現在、内科・小児科・整形外科を掲げ、慢性疾患医療・在宅医療・保健予防に力を入れています。特に在宅診療については併設の居宅支援事業所・訪問看護ステーションや地域の訪問介護事業所と共に、医療・介護の両面から患者様をサポートさせていただいています。また、診療所のある平和台を中心に他の地域にも往診に行き、「往診依頼を断らない」という姿勢で終末期の患者様やALS（筋委縮性側索硬化症）の患者様の対応もさせていただいています。今後も地域の皆様の医療要求をしっかりと受け止め、発展できるよう頑張ります。



診療所のスタッフ一同

後列左から3番目が青柳守男所長

職場紹介：小豆沢病院 栄養科 連携データ：2010年度 内容別相談件数

栄養科では毎月の行事食と誕生日膳に力を入れています。行事食は豪華さをプラスし入院生活の中で忘れがちな季節感を工夫しています。

誕生日にはうなぎ・天ぷら・手作りのシフォンケーキなどをカードと共にお膳に載せお祝いします。食欲のない患者様に対しては、栄養科の職員が食べたいものをお聞きし、可能な限りご希望に応えています。

低栄養ではどんな病気も治りにくくなります。また食事は入院中の楽しみの一つでもあり、食欲のない時でも一口でも食べてみたいと思っける食事を提供したいと考えています。

患者様の声 投書箱～ほほえみポストより

食事がとても美味しかったです。薄味で身体にあったメニューでした。毎回のメニューをメモに取って、帰宅してから自分で作って食べてみようと思います。同室の患者さんの誕生日のメニューはお赤飯とうなぎ、ケーキだったのでとても驚きました。



誕生日御膳

相談内容	入院・外来合計(延べ件数)
入院相談	1198 件(14.1%)
退院相談	3327 件(39.2%)
療養上の相談	1205 件(14.2%)
経済上の相談	1952 件(23.0%)
その他の相談	796 件(9.4%)
総合計	8478 件

医療社会課で受けた相談件数のうち、退院相談、経済上の相談が多いのが特徴です。今後も3人の相談員で相談を受けていきますので、遠慮なくご相談ください。

こんにちは。まめぞうです。みなさんお元気でしたか？誕生日御膳おいしそうだな～。食事は大事な栄養補給源。みんなもしっかり3食たべて栄養取ってね！

